

立命館大学

大学の国際化促進フォーラム幹事校 プロジェクト報告書

「学士課程におけるジョイント・ディグリー・プログラム等の国際連携による
学位プログラムの質向上と高大連携の促進」



大学の国際化促進
フォーラムとは

●お問い合わせ 立命館大学 総合企画課 〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地 Tel:075-813-8207

学長あいさつ



立命館大学学長
仲谷善雄

大学の国際化促進フォーラムにおいて、立命館大学は「学士課程におけるジョイント・ディグリー・プログラム等の国際連携による学位プログラムの質向上と高大連携の促進」というテーマで、プロジェクトに取り組んできました。本学は、アメリカン大学との25年を超えるパートナーシップにより、学士課程では日本で初めてとなる「アメリカン大学・立命館大学国際連携学科」(ジョイント・ディグリー・プログラム、以下「AU-RU JDP」)を2018年に開設しました。このことは、本学の海外展開や国際交流の促進および国際通用性の向上につながっております。

2023年度現在、学士課程におけるJDPの設置は、立命館大学が唯一となっています。AU-RU JDPに関する成果や課題を大学の国際化促進フォーラムのプロジェクトを通じて広く発信することで、日本の高等教育機関のさらなる国際通用性の進展と質保証システムの国際化の推進およびJDPで学ぶ学生のグローバル社会での活躍につながることを期待しています。本学としましては、文部科学省による補助事業を終え、自走化する大学の国際化促進フォーラムにおいて、JDPのさらなる理解促進と発展に寄与してまいりたいと存じます。

アメリカン大学・立命館大学国際連携学科(AU-RU JDP)とは？

立命館大学は、2018年4月にアメリカン大学と共同して「AU-RU JDP」を開設しました。西洋中心に築かれた学問体系である「国際関係学」を、日本を含む非西洋の視点を取り入れた「グローバル国際関係学」へと発展させ、学士課程では日本初(2023年度現在：日本国内で唯一)となるJDPです。学生は、京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、両大学連名の単一の共同学位「BA in Global IR」を取得します。学生が複数の国で長期間学ぶJDPは、異なる国・地域・文化・人種・思想・性別等の違いを認め合い、さまざまなBorderを超えて協働します。国際社会の平和と持続可能な発展に貢献するグローバル人材の輩出につながる大きな可能性を有するプログラムです。



アメリカン大学について

		1st year		2nd year		3rd year		4th year	
		spring 1	fall 2	spring 3	fall 4	spring 5	fall 6	spring 7	fall 8
R Ritsumeikan University HOME	RU	RU	RU	AU	AU	AU	AU	RU	
	Core/Foundation/Cohort Courses				Instruction linked to Seminars and Senior Capstone Program				Senior Capstone Program (Seminar)
	Academic Skills (Building foundation of Academic Writing)		Research Methods		Japanese/English (if necessary)		Thematic and Regional Courses		
AU American University HOME		fall 1	spring 2	fall 3	spring 4	fall 5	spring 6	fall 7	spring 8
	AU	AU	RU	RU	RU	RU	AU	AU	
		Core/Foundation/Cohort Courses		Instruction linked to Seminars and Senior Capstone Program		Senior Capstone Program			
	Research Methods, Seminars		Japanese		Thematic and Regional Courses				

特徴

1 | 日本とアメリカの2大学に4年間で在籍

AU-RU JDPの学生は、日米にゆかりのある桜にちなんで「Sakura Scholars」と呼ばれ、立命館大学に入学すると同時にアメリカン大学に入学することになります。そのため、入学試験も立命館大学とアメリカン大学が共同で審査を行います。

2 | 1つのカリキュラムを日米で学び、グローバル国際関係学を修得

AU-RU JDPでは、立命館大学で2年間、アメリカン大学で2年間学びます。Sakura Scholarsは、1つのカリキュラムを両大学で体系的に学び、卒業時は両大学連名の学位を手にすることができ、立命館大学およびアメリカン大学の卒業生として卒業後のキャリアを歩んでいくことになります。

3 | アカデミック・アドバイジング

日米両大学での4年間で計画的に学び、卒業していくために、各学生に1人、担当のアカデミック・アドバイザーを配置し、1対1でのアドバイジング(面談)を実施します。アドバイザーは、受講科目の選択や受講登録のサポート、英語能力向上等の学修面のアドバイス等、学生個々の履修状況全般についてアドバイスを実施するとともに、健康管理やキャリア支援、インターンシップや学費・奨学金といった案件についてもサポートします。両大学のアドバイザーは各学生の履修状況の情報共有を密に行うため学生が学ぶキャンパスをアメリカに移した後も、立命館大学で実施してきたアドバイジング内容を引き継いだアメリカン大学のアドバイザーがサポートを継続します。

4 | 英語能力向上の取組

アメリカン大学で学修を開始するためには、立命館大学での1回生の学修を終えるまでに、一定の英語スコア基準をクリアする必要があります。AU-RU JDPでは、大学における英語での学修・研究の方法を学ぶ「Academic Skills」や「Introductory Seminar」の受講を通じて、1回生のうちに全員が英語での読解、聴解、アカデミック・ライティング、プレゼンテーション、文献活用方法等について学びます。

5 | キャリア・サポート

日本での就職活動や、海外も含めた大学院進学等、卒業後のキャリア支援についても、2年間をアメリカで過ごす学生に特化したサポートを行います。アメリカン大学のキャリアセンターでの情報収集やインターンシップ等の相談を行うこと、アメリカで行われる就職フェア等への参加も可能です。AU-RU JDP特有の日米の大学での特別な経験を、学生一人ひとりが長期的なキャリア形成や国際社会での活躍に活かすことができるよう、サポートします。

6 | 授業外の多様なプログラム

AU-RU JDPでは、正課の授業だけでなく、授業外でも特別なプログラムが多数開催されています。授業や課外活動、オンライン上の交流等、共に学ぶ仲間との交流を深め、米国と日本のみならず、世界各国とつながり、ユニークな学びのコミュニティを形成していきます。

大学の国際化促進フォーラムにおける立命館大学の取組とは？

大学の国際化促進フォーラムとは

大学の国際化促進フォーラムは、国際化を牽引する大学群の多様な実績の横展開・連携を強化する環境を整備し、ニューノーマルに向けた高等教育のさらなる国際通用性・競争力の強化を目指して2021年9月に発足しました(代表/東北大学、副代表/筑波大学、事務局/立命館大学)。本フォーラムにおける具体的な活動としては、SGU採択校を中心とした本学を含む幹事校18大学が牽引する19のプロジェクトが運営され、参画を希望する大学間において具体的な横展開・

連携が行われています。

また、フォーラムの運営やプロジェクト活動の共有等を目的として総会やシンポジウムが開催されており、海外における日本の高等教育に対する国際的な評価の向上を図り、日本の大学全体として国際化を推進するフォーラムの形成を目指して取組が進められています。なお、大学の国際化促進フォーラムは、SGU事業終了後は自立的に運営できる組織へと発展させていくことが予定されています。

立命館大学が取り組むプロジェクト



プロジェクト名 学士課程におけるジョイント・ディグリー・プログラム等の国際連携による学位プログラムの質向上と高大連携の促進

立命館大学は、アメリカン大学との長きにわたるパートナーシップの下で、大学間の国際連携の中でも最も高度なJDPを学士課程では国内で初めて設置しました。AU-RU JDPは、1つの大学では得られない学修機会を高い質保証を伴いながら学生に提供することで、多文化協働人材を育成し、グローバルな活躍の場をさらに広げることにつながっています。また、海外大学と連携を深めることによる教職員の意識改革や連携の強化をはじめとした学内改革の契機ともなっております。

JDPは、国を超えた異なる大学が、共通の人材育成目標を実現するために協働して教育体制や学生支援体

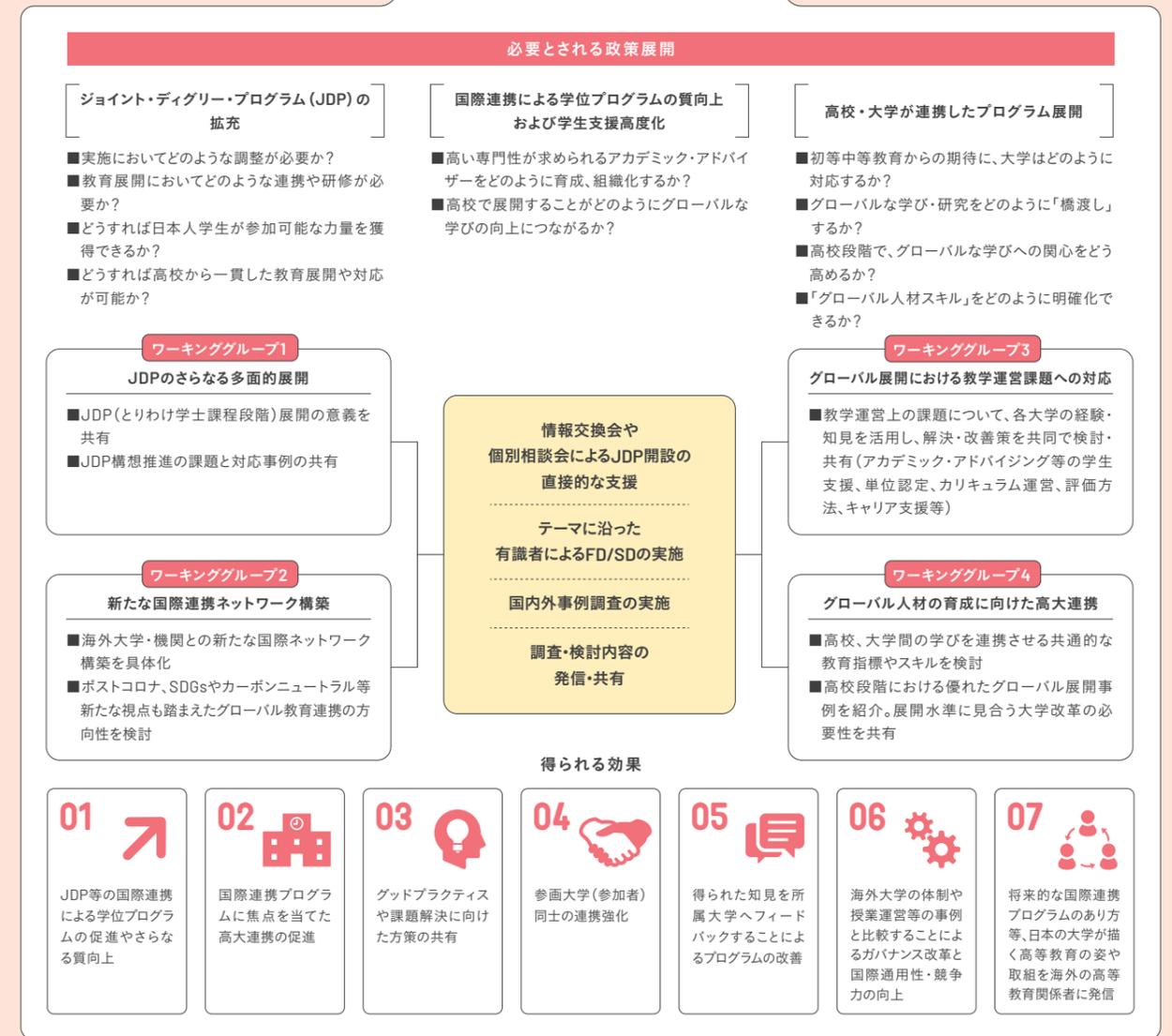
制を構築し、教育課程を編成する画期的な取組であり、日本の高等教育の国際通用性と大学の魅力の向上につながります。こうした思いから、立命館大学は、大学の国際化促進フォーラムのプロジェクトにおいて、JDPを学士課程において、AU-RU JDPを運用することで得られた知見の共有を図り、さらなる理解促進と拡充に向けて意見交換の機会やワークショップ、FDを実施する等のネットワーク形成に取り組み、JDP等の国際連携による学位プログラムの促進とさらなる質向上につながる取組を展開してきました。

プロジェクトの到達目標

学士課程におけるJDPの国際連携による学位プログラムの質向上と高大連携の促進について、高校・大学等の教職員の皆様とのコミュニケーションを重ね、4つのテーマ(「JDPのさらなる多面的展開」、「新たな国際連携ネットワーク構築」、「グローバル展開にお

ける教学運営課題への対応」、「グローバル人材の育成に向けた高大連携」)を設定し、講演やワークショップで構成されるシンポジウムを開催し、JDPの制度理解や成果および課題について理解を深めてきました。

新たなグローバル教育の推進



- JDP設置を検討する大学が、円滑に構想を推進できる取組を推進する
- 国内大学が世界各地でJDPを多面的に展開することに貢献する
- グローバルな教育展開を志向する国内大学が、既存・新規両面から国際的交流の枠組みに参画できる契機とする

- 「オールジャパン」の取組として教学運営課題を検討する
- フォーラム加盟各大学のさらなるグローバル展開を支援する
- 国内各大学・学部・学部のグローバル化に向けた改革を喚起する
- グローバル人材育成に取り組む高校・大学間の連携ネットワークを形成する

AU-RU JDP設置および運用のポイント

Point
2

- 1988 国際関係学部開設
- 1992 国際関係研究科開設
- 1992 アメリカン大学他との修士課程共同学位プログラム(DMDP)開設
アメリカン大学との学術協定にもとづく教員交換協定の締結
- 1994 アメリカン大学との学部共同学位プログラム(DUDP)開設

Point
1

- 2009 「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(G30)」採択
- 2011 国際関係学部にて英語基準のGlobal Studies 専攻(GS専攻)開設
■国の政策による追い風
- 2013 中央教育審議会大学分科会「大学のグローバル化に関するワーキング・グループ」設置
- 2014 スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)に採択
11月 大学設置基準等の一部を改正する省令等の施行

- 2013 12月 アメリカン大学SIS学部長と国際関係学部教員、国際部教職員の間でJDPに関する協議
- 2014/2015 定期協議会を実施
- 2015 国際関係学部教職員がアメリカン大学を訪問しJDPに関する協議
3月 アメリカン大学SIS担当学部長とのJDPに関する懇談
4月 立命館大学国際関係学部にてJDPタスクフォース設置
7月 立命館大学、副学長をトップとした全学検討ワーキング設置

Point
3

AU-RU JDP設立までの軌跡

Point
4

- 2016 2月 立命館大学・アメリカン大学の間で、JDP設置に向けた覚書を確認
立命館大学国際関係学部にてJDP検討委員会の設置
(教学・入試・国際(国際寮)・財務(予算、学費等)・学術情報(図書館・学生支援)・学生(学生支援))
- 2017 3月 設置認可申請書類の提出
6月 設置認可・正式協定書の締結

1st STAGE 国際交流の黎明とAU-RUの交流開始

2nd STAGE 国際交流制度の展開

3rd STAGE AU-RU JDPの設立準備

Point:

AU-RU JDPが実現に至った背景

- JDPを実現させたさまざまな要因
- 重要なのは多角的なアプローチ

AU-RU JDPは、制度面や人的ネットワーク面、意識面におけるさまざまな要因が重なって実現に至りました。JDPを検討する以前から築かれてきたレガシーもあれば、準備期間に両大学の関係が深まるにつれて育まれた資源もあります。JDPを設立するためには、学内外のリソースを把握し、足りない要素を補いながら多角的なアプローチを行う必要があります。

1. 国際教育プログラムの豊富な運用実績
2. 長年にわたり信頼関係を築いてきた連携先大学の存在
3. 学内組織の枠を超えた全学的な支援体制の構築
4. 事務系職員の人材育成に関わる取組の蓄積
5. 制度的・文化的な違いを理解し、乗り越え、新しい挑戦を実現しようとする姿勢
6. 連携・協力から新しい学問分野の創出を目指す志の共有

Point:

学士課程におけるJDP設立に必要な視点

- 学士課程の特性に即した検討・設計

- 学部学生としての充実した学びと成長機会の提供

学士課程におけるJDPの設置は、学生数、開講科目数、修得単位数が大学院と比較して圧倒的に多くなります。関わる教員も多くなるため、学部全体で支える運用となることを認識しておく必要があります。また、学生が長期間にわたって異なる国の2つの大学で学ぶことになるため、教育課程の設計や学生生活の各段階に応じた支援を丁寧に行う仕組み(例:アカデミック・アドバイジング等)の検討等大学間での調整事項が多岐にわたることになります。国の法令や大学間の諸制度の違いによる制約も多ありますが、連携する大学間が相互に理解し、それぞれの大学の優れた制度や取組を組み込む姿勢が重要になります。

1

国際化拠点形成と全学的な国際教育プログラムの開発・整備

1990年代以降、アメリカン大学だけでなく多くの海外大学と教育連携を実施。「Global Cooperation Program(大学院国際関係研究科)」開設や、「Global Studies 専攻(GS専攻)」設置等、全学レベルでの国際教育プログラムを展開しました。海外からの教員・学生受け入れ・サポート、多言語や秋入学への対応等に関して、教職員に蓄積されたノウハウがAU-RU JDP設立にも活かされました。



2

アメリカン大学との強固な信頼関係の構築

1992年の教員交換協定の締結以来、アメリカン大学で教育・研究・学生指導の経験を積んだ教員が学内に20名以上存在することになりました。また、定期協議会で教職員が相互にキャンパス訪問を行い「顔の見える・話ができる関係」が築かれていたことで、AU-RU JDP設立に向けた協議を円滑に開始することができました。



3

学部や大学の枠を超えた挑戦

AU-RU JDP設立に向けて、国際関係学部におけるタスクフォースでの検討後、副学長をトップとする全学レベルでの検討ワーキングを設置することが立命館グローバル・イニシアティブ推進本部会議にて判断されました。これにより、AU-RU JDP設立が全学レベルでのプロジェクトに位置付けられ、学部の枠を超えた全学的な支援を受けながら具体化が図られました。事務レベルでは、教学部・国際部・財務部・入学センター・総合企画部の担当職員から構成される部門を横断する事務局会議も発足し、日本とアメリカの国・大学に関わるさまざまな制度の違いを乗り越え、日本で初めてとなる学士課程のJDP設置に向けてさまざまな課題に全学体制で挑戦してきました。両大学が協議を重ねていく過程で、特定の教職員のみならず、関連部門の教職員も参画する工夫が施されたことで、両大学にAU-RU JDPサポーターの輪が広がり、一致団結することにより新たな挑戦の成功につながりました。

4

教職協働と多様な経験を有する事務職員の参画による貢献

立命館大学は教員と職員が協働する「教職協働」の大学風土をもとにさまざまな事業に挑戦してきました。AU-RU JDP設立は、日本で初めてとなる国際的な教育プログラムを創設する取組でしたが、「教職協働」の経験を活かし、全学規模で取り組んできたことが設立準備を促進した大きな背景となりました。

また、AU-RU JDPの設立にあたっては、国際教育部門、外国語教育部門、立命館アジア・太平洋大学(APU)での勤務経験者や国内外の大学院修了者、英米への留学経験者、大学基準協会への出向経験者等の数多くの事務職員が知恵を出し合い、設置認可申請やアメリカン大学との折衝を担当しました。

5

制度的・文化的な差異を乗り越え教育改善につなげる取組

日米には高等教育に関する制度的・文化的な差異がありましたが、両大学の違いを認識し、理解し、さらに高めていくために教育改善につなげていく取組を追求していったことが魅力的なプログラムの設立に結びつきました。

教育面の改善に関する取組事例

米国の大学で一般的なWriting Tutorial Programの試行的導入/アメリカン大学で採用されている教材の導入/アメリカン大学教員によるGS専攻の授業見学やシラバス確認/両大学教員の共同でのFD研修/「Joint Committee」の設置(両大学間で懸案事項の協議や入試合否判定を行う組織)

設立に向けた行政手続きに関する取組事例

JDP設置認可申請のためのガイドライン等の日本側の行政文書を英訳のうえでアメリカン大学と共有/米国におけるaccreditationの仕組みについて本学で理解

6

教育・研究の両面で新分野の創出を目指す志の共有

新分野「グローバル国際関係学」の創出のため、「グローバル国際関係学」をテーマとした講義やワークショップの開催等、教育・研究両面での交流活動も実施しました。



- 2018** 4月 第1期 RU Home学生入学
 6月 第1期 AU Home学生入学
 7月 AU Home学生が京都イマージョン・プログラムに参加し
 RU Home学生との交流
- 2019** 12月 外務省の協力により「外交講座シリーズ」を開催
 12月 QS-APPLEに参加し、AU-RU JDPについて講演



4th STAGE AU-RU JDPの運用開始

Point:

運用する中で見えた、
 学生サポート面の課題

- 1
- 2
- 3
- 4

JDPでは、国・大学・文化・制度等さまざまなダイバーシティを前提として教育課程の運用、学生支援を行うプログラムであるため、違いがあることを理解しつつ、その違いを国際的な文脈や水準において埋めていくことが重要になります。とりわけ、日本の大学においては、英語対応を前提とした制度・支援の国際化と連携する海外大学の優れた制度や運用を積極的に組み込んだ国際標準化を実現していくことが重要になります。また、学士課程におけるJDPでは、学問分野に関する専門性の修得のみならず、多様な経験学習や授業外学習の機会を充実させることが、さまざまな人的交流を生み出し、将来的な活躍の可能性を広げていくことにつながります。

1 キャリア支援

日本では学部卒業後すぐに就職することが一般的ですが、海外では大学卒業後のキャリアについて多様な考え方があります。学士課程のJDPの運用においては、こうした学生の存在とニーズを把握し、キャリア支援にあたる必要があります。また、外国人学生が日本企業へ就職する場合、一定の日本語能力と日本社会・文化に理解があることが求められるため、そのことを踏まえた支援を行っていくことも必要となります。JDPで学び、国際社会で活躍する卒業生のネットワーク化を図り、JDPの認知とプレゼンスを向上していくことも重要です。

2 カリキュラム運営

日本と海外の大学にはさまざまな教育制度の差異があるためカリキュラム運営、単位認定、授業運営、成績評価等に関する調整が発生します。両国の諸制度の柔軟性の違いから対等な交渉の実現や維持に困難が生じる場合があります。AU-RU JDPで学ぶ学生の充実した学びの実現に向けて両大学の教職員が緊密に連携し、コミュニケーションを取っていくことが重要です。

3 学生支援

SDの拡充や部門間の枠を超えた連携、専門的な学生支援組織の構築等により多様な学生支援ニーズへの対応と学生支援の国際化を図ってきました。準正課や課外活動に国際学生が参画し、授業外での学びや活動から交流を深め、学生生活をさらに充実させていけるよう、学生によるピア・サポートの輪も広がっています。

4 アカデミック・アドバイジング

学生の計画的な学習や学生生活を支援する上でアカデミック・アドバイジングが重要です。アカデミック・アドバイジングのノウハウを持つ専門的な人材育成を通じて全学的かつ継続的な支援体制の確立が必要になります。立命館大学ではSDの拡充により人材育成に取り組んでいます。

Point:

AU-RU JDPがもたらした
 「大学の国際化」

- 5
- 6
- 7
- 8
- 9

JDPの学生数(規模)は小さいものの、海外大学の学位取得を組み込んだ先端的な国際教育課程であり、入試制度、教育課程の運用・制度、学生支援、ガバナンスおよびFD/SD等、さまざまな取組の国際通用性を一層高める大きな効果を、JDPを設置する学部・学科のみならず大学全体にもたらします。

5 新たな入学者層の確保

AU-RU JDPの設立により、インターナショナルスクール、海外大学へ多くの進学者を輩出している高校およびI.B.コースを有する高校から高い関心が寄せられるようになり、新たな入学者層の確保につながっています。

6 留学生の多様化の進展

立命館大学には70カ国以上の学生が在籍していますが、AU-RU JDPの設立により、北米からの留学生数が増加し、学生の出身国・地域比率も変化し、留学生の多様化が進展しました。

7 ガバナンスの国際化

学生募集、入学者選考、授業運営、学生支援といったさまざまな教育課程の運用を立命館大学とアメリカン大学が常に連携・協力して行う環境が構築されました。教職員がオンライン・対面での対話を継続し、日米のさまざまな違いを超えて国際通用性のある質の高い教育課程の構築が実現しています。

8 事務職員の国際化・高度化の推進

AU-RU JDPの設立段階から関連部課の職員も参画したことで、全学で国際的な水準や留学生の立場に立った業務運営を行う意識の変化が生まれました。また、留学生を含む学生の学修支援、学生生活支援、心身の健康支援を行う体制の整備も進展しました。

9 正課外・学生支援プログラムの豊富化

正課活動のみならず正課外の活動においても英語基準学生を対象とした学部独自企画が増加しており、AU-RU JDPで学ぶ学生生活がより充実したものになりつつあります。また、大学としての英語基準学生を含む学生支援プログラムの拡充とともに学生同士のピア・サポートも発展しており、全学的な国際共修・国際交流が進展しております。



Point:

さらなる国際化のための
 AU-RU JDPの課題

- 10
- 11

JDPは2つの国・大学でひとつの共同カリキュラムを体系的に学ぶことができる魅力的なプログラムです。JDPを通じて複数の国・大学で正規学生として学び生活することで、国際社会のさまざまな舞台での活躍が期待されます。一方で、JDPの魅力や制度に関する社会的な評価や認識はまだ十分ではありません。大学からの発信に加えて、JDPで学ぶ学生や卒業生ネットワークを構築し、輪を広げつつ、さらなる発信を通じて国際社会への認知を高めていく必要があります。

10 JDPの理解促進と日本人学生の入学者確保

AU-RU JDPの意義や特長が多くある一方で、日本の大学のひとつの学部・学科のプログラムとして認識されることがあるため、学費、英語力、選考基準の高さに注目が集まり、日本国内での入学者確保に課題が残っています。AU-RU JDPでは、アメリカン大学と協働して高校訪問を行う等、このプログラムの特長や可能性の理解促進に努めています。また、合格者には、入学までの期間に語学検定スコアの向上を促す等、フォローも実行しています。

11 国際的な水準を実現する財政運営

JDPは、異なる国の2大学によって運用される教育課程であるため、国際的な水準に照らして質の高い教育・学生支援・運用が常に求められます。そのため、学生数に対して多くの教職員が関わるため、財政構造・運営に留意する必要があります。

2020 2月 アメリカン大学が全ての海外渡航プログラムの中止・帰国とキャンパス封鎖を決定。両国で学ぶAU-RU JDP学生の緊急帰国
 ▶両大学で学生の安否確認、帰国までのフォロー。両大学共同で、学生および保護者への説明会を実施
 ▶「日本へ入国できないAU Home学生」を意識した春学期の授業をオンラインで運営するための検討
 ▶春学期はオンラインで両大学の授業を開講

2022 3月 第1期学生卒業

2021 9月 大学の国際化促進フォーラム発足
 12月 第1回キックオフイベント開催
2022 1月 第2回キックオフイベント開催
 3月 第3回キックオフイベント開催
2023 2月 第1回シンポジウム開催
 12月 第2回シンポジウム開催

今後の展開

学士課程におけるJDPの実践事例の紹介、
 設立・運用に関する相談窓口の設置

[JDP相談・問い合わせ窓口]
075-813-8207
i-forum@st.ritsumeikan.ac.jp

5th STAGE コロナ禍での国際交流

6th STAGE AU-RU JDPおよび国際交流の未来

Point:

コロナ禍への対応

コロナ禍では、JDPが海外留学プログラムではなく、2つの国・大学がひとつの共同カリキュラムを運営する国際教育課程であることを両大学が再認識し、学生の安全と継続的な学びのために迅速かつ緊密な連携を取りました。未曾有の状況下においてもアメリカン大学と立命館大学がスピーディーな対応ができたのは、JDP設立の背景となった両大学の信頼関係と新しい挑戦に向けて同じ意志を有していたことの賜物だったと言えます。

1 JDPの特性を活かした
 コロナ禍への対応

コロナ禍では出入国の制限がありさまざまな海外留学プログラムが大きな影響を受けましたが、AU-RU JDPでは、両大学の教職員が緊密な連携を取り合い、ラーニング・スケジュールの変更やセーフティ・ネットの提供等プログラムの特性を活かした対応を行い、両大学の学生の学びを継続することができました。

2 コロナ禍を共に乗り越え、両大学の
 一体的な運用がさらに強固に

2020年2月以降、10月まで16回を超えるオンラインミーティングを実施し、コロナ禍対応の中で両大学の協力関係はさらに強固なものになりました。Zoom等オンライン環境が普及したことで、オンラインでの学生交流企画、研究交流といった取組も開始しました。

Point: 学生の声

海堀 亜美さん
 2020年度
 RU Home入学生



ワシントンD.C.での2年間は、AUの正規生として国際関係学の専門性をさらに高める学びができました。国際関係学の学びを豊富化するフィールドワークや造詣が深い方からのお話を聞く機会に加え、インターンシップやボランティア等、長期間海外生活することで得られる経験も多く、以前よりも私の見ている世界が広がりました。卒業後は、日本とアメリカでのグローバル国際関係学の学びの経験と英語力を活かして国際社会で活躍できる人材になりたいと考えています。

RUの充実した奨学金支援と両大学による共同カリキュラム運営により米国の大学でも本格的な学びと学生生活を送ることができました。日本から見る世界、世界の中での日本。西洋と非西洋の2つの視点から国際関係学を深めていくAU-RU JDPでの幅広い学びと経験からさまざまな日常への好奇心が高まり、その本質に迫る深い思考力を修得できました。自身の新しい挑戦の中での学びの価値を発信し、国際社会に貢献したいと思います。

杉本 泰良さん
 2020年度
 RU Home入学生



LIND Joseph Anthony
 2020年度
 AU Home入学生



This program is a belief that I still maintain today as this has allowed me to bridge the gap between the political contexts of both Japan and the United States in a way that supplies a well-rounded and truly global education that has equipped me with the knowledge and skills necessary to successfully complete my future goals. I truly feel as if I had two extremely different, yet complementary educational experiences at American University and Ritsumeikan University. On Ritsumeikan University, I was extremely impressed with the breadth of extracurricular activities available to join. I have even been able to explore another side of myself by entering the pottery club where I have even been able to present my artwork in an art show.

Point: これまでの取組〈アーカイブ〉

KICK-OFF EVENT キックオフイベント



【第1回】AU-RU JDP設置の経緯と今後の可能性

「越境し融合する大学教育」と題し、日本国内初となる学士課程でのJDPの設置という新たな挑戦について共有。立命館大学とアメリカン大学がJDPの設置に至った経緯や両大学がさまざまな制度や考え方の違いを超えて創造する新たな学びの展望について紹介。海外大学とJDPを実施する上で重要な連携のあり方やプログラムの理解と促進に向けた広報、高度なグローバル教育に臨む日本人学生の語学力向上に関する支援について参加者と意見交換が行われました。



【第2回】アカデミック・アドバイジング

「グローバルな学びを支えるアカデミック・アドバイジング」と題し、日本の高等教育において高い関心が寄せられている「アカデミック・アドバイジング」について講演・ディスカッションを実施。立命館大学の国際関係学部やグローバル教養学部でのアカデミック・アドバイジング実践事例を紹介し、意義や必要性、学生支援のあり方について理解を深める機会となりました。参加者からは、教職員の専門性や育成・研修の仕組みの必要性、学生が求める支援内容や方法に関して意見が寄せられ議論が交わされました。



【第3回】高大連携の促進

「初等・中等教育におけるグローバル教育の到達点と高大連携への期待」と題し、大学と初等・中等教育機関の接続・連携に向けた事例等を紹介。特に、高校から見た大学のグローバル教育の取組や大学での学び・研究への接続に向けた課題や期待について活発な意見交換が行われました。

SYMPOSIUM シンポジウム



【第1回】WG1・WG3

キックオフイベントの参加者から高い関心が寄せられたテーマについてさらに検討を深めていくため、4つのWGを設置。2022年度は、「JDPのさらなる多面的展開～国際連携プログラムの教学・学生支援課題への対応～」と題し、シンポジウムを対面で開催しました。「知見の共有」と「JDPの質の向上」、そして「他大間のネットワークの形成」を目的として開催されたシンポジウムには9大学19名の教職員が参加しました。各大学の国際化に関する取組状況やベストプラクティスの共有と今後のJDPの展開について議論が展開されました。グループワークでは、学士課程ならではのJDPの教学運営の特徴に関して意見交換があった他、さまざまな国・地域、背景を有する学生支援の国際化・高度化への対応、進路・就職に関する多様な考え方があるJDPならではのキャリア支援のあり方について理解を深める議論がありました。



【第2回】WG2・WG4

「Joint Degree Programの設置の経緯と現在」と題してシンポジウムを開催。2回目となった2023年度の企画には教職員のみならず在学学生も登壇し、51大学から100名以上の教職員が参加。AU-RU JDP設立に至るまでの大学間のリアルな協議状況やJDP開設後の成果、新たな課題等が報告されました。開設から複数年が経過する中で生じた教職員の意識や国際化に対応する組織・業務の変化等は、進化を続ける立命館大学のプログラムならではの発信となりました。また、JDPを通じた学生の成長や活躍は、プログラムの魅力や可能性を示すものとなり、他大学から高い関心が寄せられました。

| 2024年度～ |

本プロジェクトの自動化を視野に入れ、さまざまなイベントの開催や他学との交流、取組成果の発信を通して、立命館大学は国際化を促進してまいります。